

週報

こひつじ

第40巻 24号
大津キリスト教会
菊池郡大津町室 119
TEL 096-293-4470
FAX 096-293-4961
牧師 米村 英二

投壘通信

その四 投壘通信だけは続けたい

最後に、ヒルティが勧める感謝は、これです。た私はついてゆくのに苦勞しました。全部で一八科目。試験は一〇

「実にたくさんの方がもう起こる必要がなく、永久に片付いてしまったことに、感謝しなさい」

老年期を迎えたわれわれには、人生の出来事の多くがすでに終わっています。日に迫っているという夢です。うなされて起きます。夢だとわかって、ああ、卒業していたんだと安堵したことが何度あったでしょう

若い頃、どの学校へゆこうか、どの会社に入ろうかと、進路のことで悩みました。学校だけではありません。この

でも、それらはみな今では過去のことです。だから感謝せよ、と分はみな終わっているのです。子育ても、そして彼らの進学、

私が入学したのは電気専門の高校でした。理科系の人間でなかつています。就職、結婚の問題もすべて片付い

そこでヒルティは言うのです。それらを再び繰り返すことはないのだから、後ろを振り返らず、永遠に向かつて突き進めと。そして二つのことを提言するのです。

第一は、もつと気軽に生きる。そしてたいていのことはだれにも気持ちよく「ハイ」と答える。

妻との時間も、もうたくさんはないのですから、なるべくそうしたいものだと思います。

第二は、仕事を続ける。

何も仕事をしない老人たちは、すぐに自分を余計なものと感じやすい。だから「最後の息を引き取るまで活動的であることが、現世の生活の意義であり、モットーだ」。では、私は何をすべきでしょうか。

最近、『誰でもよいあなた』へ投壘通信』という本を読みました。

メッセージを紙に書いて、それを壘（びん）に詰め、海に投げ入れる。すると壘は波に揺られながら、やがてどこかの海岸にたどり着く。それを拾った人は、壘のなかのメッセージを取り出して、

「ああ、これは私のために書かれたものだ」

そう思つて、感謝して読んでくれるのだそうです。

考えてみると、五〇年にわたる私の伝道も、投壘通信のようなものではなかったかと思ひます。知らないだれかに届いてくれたら、それでいい。そう思いながら説教をし、週報を送り、何冊かの本も書いてきたのです。

昨年の暮れのことです。カナダのバンクーバーから、ひとりの女性を訪ねてくださいました。

彼女は、神戸の出身で、子どもの頃から、英語で教育を受け、その後、ニューヨークの大学で経済学を学び、アメリカの銀行に就職。ロンドン、東京、ニューヨークで働き、その後退職して、香港にいた頃、ひよんなことで教会に行き始めました。

しかし、心に葛藤があり、続けるべきかどうか迷っていたとき、私の書いた文章を読んで、「がんばらなくても、弱いままでも、いいのだ（私の説教は、そういうのが多いらしい）」

と励まされたというのです。さだされたというのです。

らに私の記事を捜し求めるうちに、ですから私はこれからも、健康
大津教会のホームページにたどりである限り、投壇通信だけは続け
着き、私の説教がネットに配信されたいと思います。きつとどこかで、
れていることを知り、どうしたら「届いた。届きましたよ！」
聞けるだろうかとメールを送ってと、心の中で叫んでくださる方
こられたのでした。それ以来、文のあるのを信じて。(終)

通が続いています。

今日の礼拝

また事故で息子さんを失った方から、
「悲しみで心がうちひしがれ、つらい日々を送っていたとき、ある
人から先生の本をいただきました。○教会学校は午前一〇時から。
また先生の動画説教の存在も知らされ、今では、それを聞きながら、
心がいやされる日々を送っています」

○説教は米村牧師。

先週の礼拝

との便りをいただいたときも、
思いました。
私がお海に投じた壘を拾い上げて、
中に詰められたメッセージを読ん
でくださった方があったのだと。
詩人ロングフェローは空に向か
って、一本の矢を放ち、一つの歌
もそのようにしなさい」です。ま
を歌った人のことを書いています。ずは、自分がしてもらいたいこと
ずつとのちに、その矢は樫の木の
を神様にしていただく、それが人
なかに、その歌は、初めから終わ
りまで、ある友の胸のうちに見
るとのことでした。

岡裕美さん。

司会は宮元隆博さん、奏楽は吉

説教はマタイ七章一二節の黄金

律から江藤洋子さんが話してくだ
さいました。ご存じの「自分にし

てもらいたいことは、ほかの人に

を歌った人のことを書いています。ずは、自分がしてもらいたいこと

ずつとのちに、その矢は樫の木の
を神様にしていただく、それが人

なかに、その歌は、初めから終わ
りまで、ある友の胸のうちに見
るとのことでした。

先週の出席

○第一礼拝が四五名、第二が四
六名、合計九一名(男三一、女六
〇)。それに子どもが五名、合
せて九六名でした。

○第二礼拝後、インドネシアか
ら来ておられるヨランダさんを
紹介しました。毎日曜日、自転車
で三〇分かけて来てくださってい
ます。今マレーシアからミッシェ
ルさんのご両親が来日中ですが、
驚いたことに、マレーシア語とイ
ンドネシア語はほぼ同じなのだそ
うです。お互いに言葉が通じて、
楽しく交流されています。ヨーラ
ンダさんは、少し日本語ができま
す。ぜひ、お交わりください。

次週の礼拝は、

第一礼拝のみです。

六月三〇日はオランダからモー
レンキャンプさんを招いての礼拝で
す。説教は英語で、通訳がつくの
で、説教時間がいつもより長くな
ります。そこで、その日の礼拝は

一〇時からの一回だけにします。

したがって一時間からの第二礼拝
はありません。まちがいのないよ
うに一〇時においでください。

礼拝後、軽食のときがあります。
そのあと、モーレンキャンプさん
を囲んで質疑応答のときをもちたい
と思います。自由にご参加くださ
い。

案内・消息

○八月一八日の礼拝では、関西
聖書学院の舎監をしておられる富
浦信幸さんが説教してくださいま
す。ご家族の皆さんで来られます。
総勢八人です。お交わりが楽しみ
です。

○篠夫妻から、旅行の日記が送
られて来ました。掲示板にありま
す。お読みください。